

## 日本とフランスの獣医学交流

長谷川篤彦<sup>1)</sup> 早崎峯夫<sup>\*2)</sup>

<sup>1)</sup> 東京大学農学部（文京区弥生1-1-1）

<sup>\*2)</sup> 東京農工大学農学部（府中市幸町3-5-8）

Relationship in Veterinary Science between Japan and France  
ATSUHIKO HASEGAWA<sup>1)</sup> and MINEO HAYASAKI<sup>\*2)</sup> (<sup>1)</sup> National School of Veterinary Medicine  
University of Tokyo, Bunkyo-ku, Tokyo 113, <sup>\*2)</sup> National School of Veterinary Medicine,  
Tokyo University of Agriculture and Technology, Fuchu, Tokyo 183)

日仏獣医学会創立一周年を迎えるのを記念して「日仏獣医学セミナー開催とフランス獣医学・学術研究機関訪問」が企画された。われわれは1990年6月27日から7月8日の12日間にわたりセミナーに出席するとともにパストゥール研究所（パリ）およびフランスの全獣医学大学を訪問し、日仏間における組織的な学術交流活動の確立とその推進を図ってきた。

参加者は、長谷川篤彦（東京大学教授）、早崎峯夫（東京農工大学助教授）、小野寺 節（家畜衛生試験場、室長）、能勢 光（京都市開業）および桜井雄一郎（仙台市開業）ほかであった。

日仏獣医学会では、学会の設立準備期間も含めて約6年前から地道にフランス獣医学界有力識者との間で両国間の学術交流活動確立のための検討を重ねてきたこともあって、フランス側でも数年前から日本との学術交流の機運が高まってきており、日仏獣医学会設立の機は熟してきていた。そのような時期にわれわれが訪問したことで、日本獣医学界への関心は一挙に高まり、われわれの帰国後

直ちに（1990年7月12日）フランス側に日仏獣医学会が設立された。そこで、これを機会に日仏獣医学会と交流があり、かつ日仏間の学術交流にたいへん友好的で積極的であった研究者達を訪問機関順にここに紹介する。

### 1. パストゥール研究所 Institut Pasteur（写真1）

同所はパリ市モンパルナス駅の西側にあるが、フランス国内にはこの他に北フランスのベルギー国境に近いリール市とフランス南西部のリヨン市の計3ヵ所にある。

Prof. SEBALD（写真2）（嫌気性菌部）は昨年日本に招へいされ講演している。われわれは昼食をはさんで朝9時半から午後2時過ぎまで同研究室の紹介を受け、会議室で意見交換を行った。同教授の計らいで真菌研究部門も訪れ Prof. DROUHET や Dr. GUEHO から研究紹介を受け、その他免疫研究部門、実験動物部門も見学し、各専門分野の研究者の話を聞くことができた。さらにパストゥール博物館やパストゥール廟の案内と、親切な応対を受けた。

### 2. アルフォール獣医学大学 Ecole Nationale Vétérinaire d'Alfort（写真3）



写真1 パストゥール研究所（パリ）



写真2 左から長谷川教授、Drouhét教授、Guého教授、Sebald教授

\* 日仏獣医学会連絡先（総務幹事・早崎峯夫：東京農工大学農学部）

同校は1766年に設立された世界で2番目に古い獣医学学校でわれわれは同大学を便宜的にパリの獣医大学と呼んでいるが、正しくはパリ市内ではなく、南東部へ地下鉄8号線で簡単に行けるメゾン・アルフォール市にある。



写真3 アルフォール獣医大学正門



写真4 歓迎昼食会。左からRossignol君、Morailion教授、Silberzahn学長、長谷川教授、Chérmétte助教授



写真5 歓迎昼食会。左からBussieras夫人、能勢博士、Bussieras教授、小野寺夫人、Pilet教授、小野寺博士

Prof. BUSSIERAS (写真5) (寄生虫病学) は日仏獣医学会設立の準備段階から設立後の現在まで、日仏間の獣医学学术交流の確立に最も貢献したフランス側の功労者といえる。同様に Prof. Adi. CHERMETTE (写真4) (同上) も極めて友好的に対応してくれたひとりである。元学長の Prof. PILET (写真6) (比較免疫学研究所) はフランス獣医界の重鎮で国際的にも広く活躍しておられ、その政治的手腕は高く評価されていて、前述の日仏獣医学会の会長でもある。われわれは同校において、寄生虫病学、内科学、熱帯獣医学などの分野における最近の動向や事情について意見交換を行った。同校の来賓用食堂にて行われた歓迎昼食会には、この春から同校の学長に就任した Directeur SILBERZAHN (生化学)、Prof. MORAILLON (単蹄目と食肉目動物の内科学および症候学) も出席し、全学を挙げての歓待を受けた (写真4, 5)。その他、前学長の Prof. TOMA (写真7) (伝染病、人畜共通感染症および衛生法規学)、Prof. CLAIR (写真8) (熱帯病獣医学研究所) ら、日本との学术交流に大いに興味を持っている教官は少なくない。

### 3. ナント獣医大学 Ecole Nationale Vétérinaire de Nantes (写真9)

同校は1979年に設立され、4校のうちで最も新しい



写真6 Pilet教授 (日仏獣医学会会長、元学長)



写真7 Toma教授 (前学長)

獣医大学なので対外的学術交流の実績に最も乏しい。

日仏獣医学会と一貫して交流を続けているのは Prof. MARCHAND (寄生虫病学) で, Prof. Adj. L'HOSTIS (同上) も大変友好的である (写真 10)。同校はフランスでも有数の酪農地帯のブルターニュ半島を中心としたブルターニュ地方 (昔のブルトン国) の首都ナント市に

あり, 地理的にも大動物の疾病の研究が主体となっている。

#### 4. トゥールーズ獣医大学 Ecole Nationale Vétérinaire de Toulouse (写真 11)

同校はフランス南部の大都市であるトゥールーズ市に 1825 年に設立された。

学長の Directeur FERNÉY (写真 12) (臨床繁殖学) はドイツへ出かけていて不在であったが, 日仏獣医学会

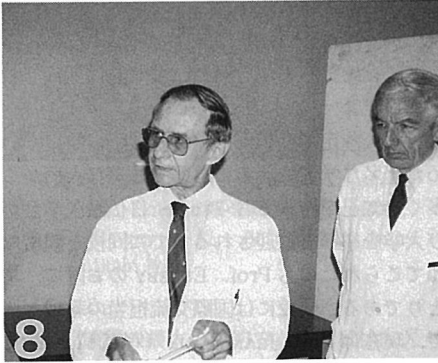


写真 8 左から Clair 教授, Bussiéras 教授 (熱帯獣医学研究所にて)



写真 11 トゥールーズ獣医大学構内



写真 9 ナント獣医大学構内



写真 12 Férnéy 学長



写真 10 左から Marchand 教授, 同夫人, L'Hostis 助教授



写真 13 教授会室にて, 中央, 長谷川教授 (右) と Cabanie 教授

と現在まで連絡を取り合ってきた Prof. DORCHIES (写真 14) (寄生虫病学) の計らいで、副学長の Vice directeur CABANIE (写真 13) (病理解剖・組織学) 以下、Prof. VAN HAVERBEKE (同上)、Prof. LESCURE (単蹄目および食肉目動物の内科学および症候学・獣医法規学)、Prof. Adj. REGNIER (同上)、Prof. CHANTAL (伝染病、人畜共通感染症および衛生法規学)、Prof. DARRE (畜産学・経済学)、Prof. SAUTET (家畜解剖学) らの歓迎を受けた。この他、Prof. Adj. CHELCHER (写真 14) (家畜および家禽の内科学)、Prof. Adj. FRANC (寄生虫病学)、Prof. Adj. DUCOS DE LAHITTE (同上) など、日本との学术交流に期待している教官は多い。同校には獣医眼科学のセンターがあり、Prof. LESCURE を中心に教育研究に力を入れていることなどが紹介された。

5. リヨン獣医大学 Ecole Nationale Vétérinaire de Lyon (写真 15)

同校は 1762 年に設立された世界で最初の獣医学校で、約 15 年前にリヨンの北西約 20 km のマルシー・レトワール市の丘陵地帯に現在の校舎を新築して移転した。



写真 14 腹腔鏡検査中、手前 Chélcher 助教授、後方 Dorchies 教授



写真 15 リヨン獣医大学正門

なお、余談になるが、それまでの旧校舎は今は音楽学校になっていて、そこへ通う女子生徒らは、“わたしたちは獣医学校へ通っています”と、昔、獣医学校だったことを自慢げに言っているそうで (微生物学の Prof. OUDAR 談)、それ程この世界最初の獣医学校はリヨン市民の誇りとなっている。朝 9 時に大学に着いて、広い学長室に通され、われわれを待ち受けていた学長の Directeur LAPRAS (写真 17) (内科学) と多くの教授の歓迎を受けた。そもそも同校は国際的に活躍している教授が多く、なかでも Prof. EUZEBY (写真 16) (寄生虫病学、数年前定年退官) は元世界獣医寄生虫学会会長も務めた著名な学者で、その温厚で誠実な人柄から日本にも多くの知己を持っておられる。日仏獣医学会が、このたび大学を挙げて歓迎されるまでに同校と親密な交流を重ねてこられたのも Prof. EUZEBY のお陰で、功労者のひとりである。同校には国際交流担当の教授が置かれていて、現在は Prof. JEAN-BLAIN (写真 17) (栄養学)

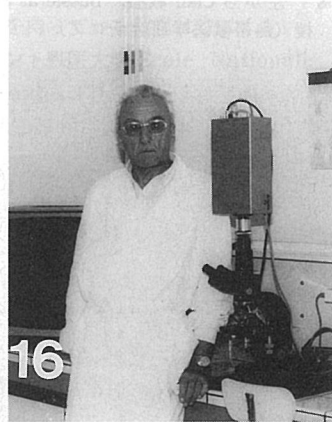


写真 16 Euzéby 教授 (日仏獣医学術交流の理解者)



写真 17 日仏獣医学会から記念品贈呈。  
左から、長谷川教授、Oudar 教授、Lapras 教授、Remy 助手、Jean-Blain 教授、Délattour 教授

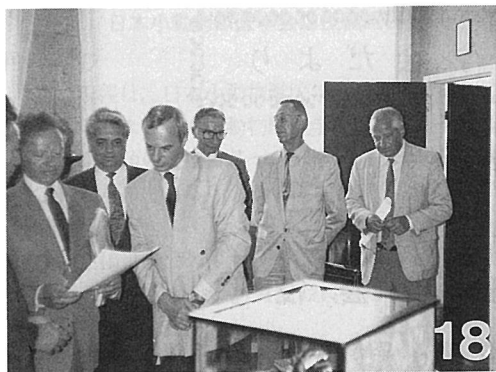


写真18 学長室にて。左から, Lapras 教授, Lobiétti 事務局長, Clérc 教授, Gevrey 教授, Bost 教授, Jean-Blain 教授

が担当している。

今回の訪問旅行の最大の目的である「日仏獣医セミナー」は、ここリヨン獣医大学で開催された。演題は次のとおり。

- (1) Directeur LAPRAS : リヨン獣医大学の現状。
- (2) Dr. LOBIETTI (リヨン獣医大学事務局長, リヨン地方獣医師会会長) (写真 18) : フランスにおける獣医師組織の構造。
- (3) 早崎峯夫 : 日本の獣医学教育。
- (4) 長谷川篤彦 : ネコのウイルス感染におけるサイトカイン。
- (5) 小野寺 節, ほか : レオウイルス感染リコンビナントにより誘導された抗サイログロブリン抗体。
- (6) Prof. CLERC (写真 18) (眼科学) : 白内障発症犬に対する人工水晶体の移植。
- (7) Dr. ASSO (国立農業研究所附属研究室長) : 山羊におけるウイルス感染。
- (8) Prof. CHOMEL (写真 19) (伝染病学) : 伝染病, 人畜共通感染症, 疫学。

セミナーは予定時間を延長して行われ、普通の学会では味わえない意見交換の場となった。終了後、学長主催の歓迎昼食会にも多くの教授や助教授が出席された。紹介すると、Prof. DELATOUR (生理学・生化学), Prof. KECK (毒性学), Prof. BOST (生理学・治療学・薬物動態学), Prof. GEVREY (寄生虫病学), Prof. BERTRAND (臨床繁殖学), Assist. REMY (微生物学), それに日本の獣医学教育を博士論文のテーマに掲げて論文作製中の Monsieur BARLAND ら (写真 17 ~ 19) で、成功裏に



写真19 リヨン獣医大学にて。左から, 能勢博士, Gevrey 教授, 小野寺博士, 桜井博士, Bertrand 教授, Jean-Blain 教授, 桜井夫人 (手前), Barland 君, 小野寺夫人 (手前), Ouder 教授, Lobiétti 事務局長, Kéck 教授, Lapras 学長, Remy 助手, 長谷川教授, Clérc 教授, ChoméI 教授

セミナーと学術訪問を終えることができた。

以上のように日仏間の学術交流活動の第一歩が踏出され、双方の間に渡されている“パイプ”も少しその太さを増してきた今、日仏獣医学会 (日本側) と日仏獣医学会 (フランス側) の間の学術交流活動がますます充実していくことが大いに期待されている。

今回の渡仏に関して、お世話になった各方面の方々に感謝します。

#### 訪問機関と所在地の紹介

1. Institut Pasteur.  
28, rue Dr. Roux, 75724 Paris Cedex 15
2. Ecole Nationale Vétérinaire d'Alfort.  
7, avenue de Général-de-Gaulle, 94704 Maisons-Alfort Cedex
3. Ecole Nationale Vétérinaire de Nantes.  
44087 Nantes Cedex 03
4. Ecole Nationale Vétérinaire de Toulouse.  
23, Chemin des Capelles, 31076 Toulouse Cedex
5. Ecole Nationale Vétérinaire de Lyon.  
1, avenue Bourgélat, B. P. 83, 69280 Marcy-l'Etoile